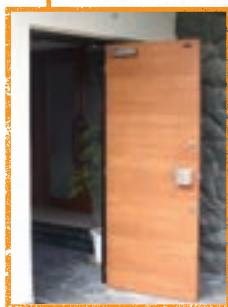
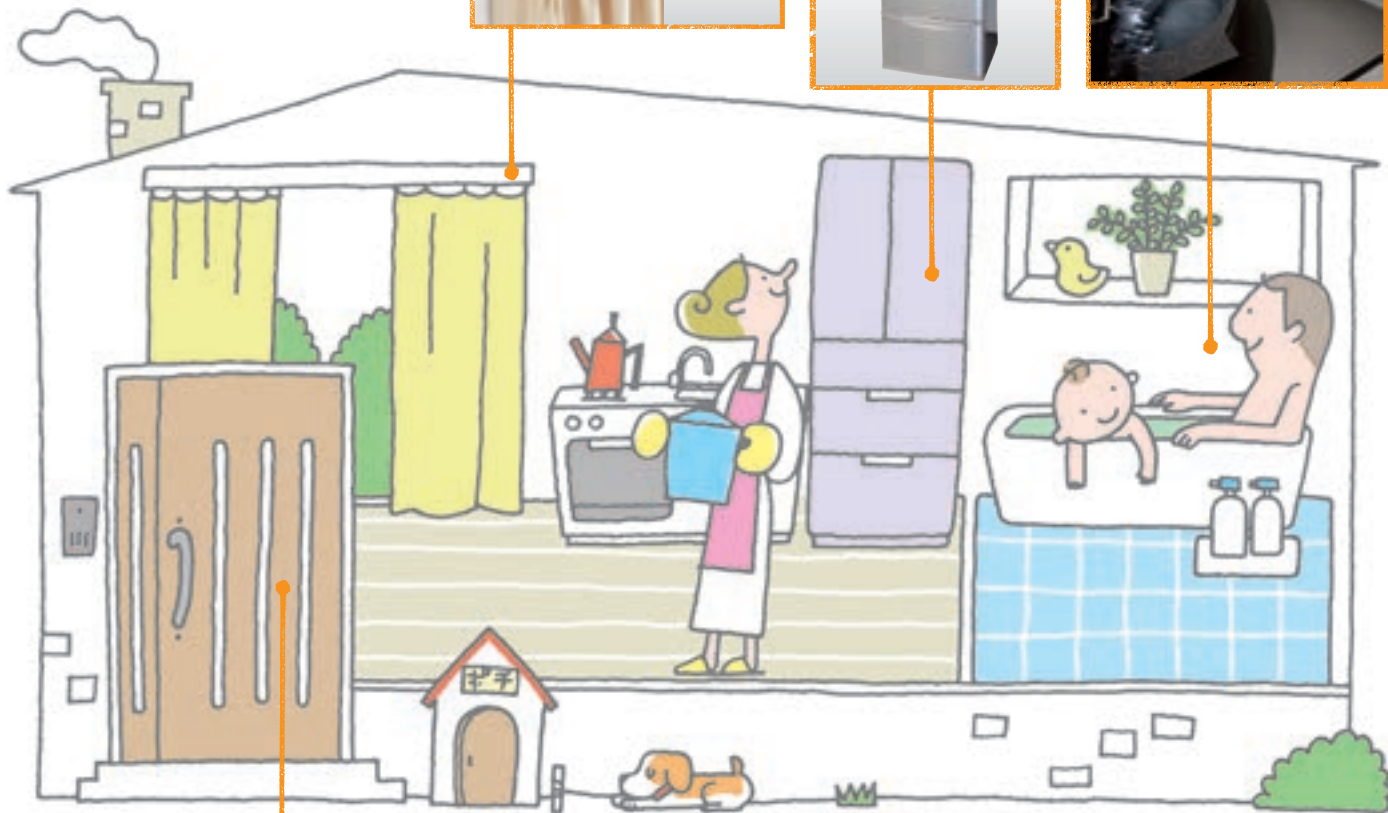


株主通信

第116期 中間報告書
2012.4.1 >>> 2012.9.30



家庭の中にも東洋鋼鉄の製品が！

冷蔵庫の扉、ユニットバス内装、カーテンレール、玄関ドアなど
多様化する意匠ニーズを東洋鋼鉄の製品が支えています。

鉄にこだわる表面処理鋼板のパイオニア

当社の製品は私たちのくらしの身近なところで活躍しています。

“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼鈑はこれまでさまざまな製品を世に送り出してきました。今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。

圧延
当社の
コア技術
表面処理 ラミネート

日本で民間初のぶりきメーカー

その他材料

- 梱包資材用帯鋼
- 機械器具
- 耐食・耐摩超合金



射形成形機部品 (耐食・耐摩超合金)

電気・電子部品材料 自動車・機械部品材料

- ニッケルめっき鋼板
- 電気亜鉛めっき鋼板
- 冷延鋼板



ゲーム機・携帯電話 (電気亜鉛めっき鋼板)

機能材料

- 磁気ディスク用アルミ基板
- 光学用機能フィルム



デスクトップパソコン・サーバー向け
ハードディスク
(磁気ディスク用アルミ基板)

缶用材料

- ラミネート鋼板
- ぶりき
- ティンフリースチール



食缶・インキ缶 (ぶりき)

建築・家電用材料

- 樹脂化粧鋼板
- 植毛鋼板
- 銀鏡めっき金属板



太陽光採光システム「どこでも光窓」
(銀鏡めっき金属板)

当中間期のポイント

● **売上高** 565億81百万円
(前年同期比 2.0%減)

● **営業利益** 15億57百万円
(前年同期比 26.9%減)

● **経常利益** 16億31百万円
(前年同期比 25.4%減)

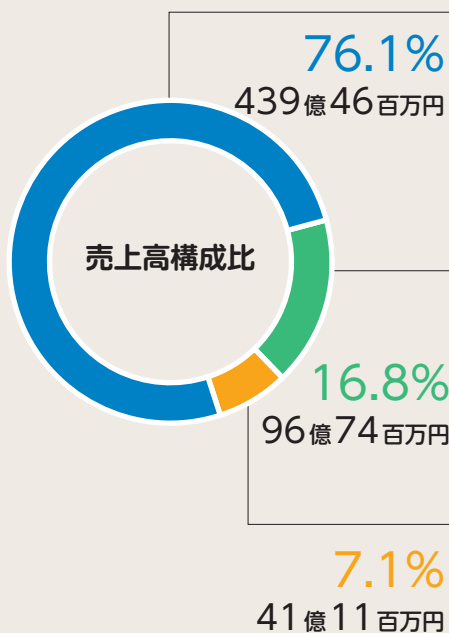
● **中間純利益** 6億76百万円
(前年同期比 54.1%減)

POINT ① 鉄鋼業界は建設向けで堅調な生産が続いているものの、自動車向けに陰りがみられる

POINT ② アジア経済が減速するなかで東アジアを中心とする諸外国との競争が激化するなど、厳しい状況

POINT ③ 主力の鋼板関連事業における販売数量の低迷や販売価格の下落の影響を受ける

セグメント情報



鋼板関連事業



事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

事業の概況

- 飲料缶材は、需要不振の影響があり、工業用缶材は、化学関連需要の回復が遅れる。
- 電気・電子部品向けは、ハイブリッド車用での堅調な需要。
- 自動車・産業機械部品向けは、ベアリングシール材の需要が低迷。

機能材料関連事業



事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造および販売

事業の概況

- 磁気ディスク用アルミ基板は、高品質対応による製造原価上昇。
- 光学用機能フィルムは、フラットパネルディスプレイ関連市場において着実に浸透。

その他事業



事業内容

梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造および販売

事業の概況

- 梱包資材用帯鋼は、市場価格が下落。
- コイル結束装置などの機械器具は、価格競争が激化。
- 硬質合金は、主力の射出成形機部品が好調に推移。

なお、各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。

厳しい環境でも 相応の利益は確保 光学用フィルムなど 新規分野にも ご注目ください

Q 当中間期の経営成績について
ご解説ください。

A 鉄鋼市場の想像以上の冷え込みから、
減収減益を余儀なくされました。

国内景況は東日本大震災からの復興とともに緩やかながらも回復に向かいつつありましたが、欧州債務危機など世界経済の停滞により、回復の動きに足踏みが見られる状況です。鉄鋼業界でも、アジア経済の減速とともに価格競争が激化するなど、厳しい事業環境が続いています。このような環境の中、当中間期の連結経営成績は売上高が565億81百万円(前年同期比2.0%減)、営業利益15億57百万円(前年同期比26.9%減)、経常利益16億31百万円(前年同期比25.4%減)、中間純利益6億76百万円(前年同期比54.1%減)となりました。

どの事業とも総じて厳しい状況ではありましたが、中でも厳しかったのが主力の鋼板関連事業です。欧州や中国など海外市場の冷え込みが大きく影響したほか、非常に激しい価格

代表取締役社長

田 中 厚 夫

第116期中間報告書をお届けするにあたり、
代表取締役社長 田中厚夫へのインタビューを通して
当グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

競争の影響もあり、残念ながら減収減益となりました。前期から続く不振をなんとか挽回しようと懸命に努力しているのですが、予想以上に市場環境が厳しく、なかなか結果を出せないことに非常に歯がゆい思いをしております。とはいえ、これだけ厳しい環境下でも赤字に陥ることなく、低水準ながらも利益を計上できていることは、これまでの事業構造改革の成果であり、心強い材料であると捉えています。

明るい材料も出てきています。当社が新規分野として挑んできた光学用機能フィルムが、モバイル用途に採用されるようになってきました。各事業が軒並み苦戦を強いられる中、上期はこのフィルムが業績を下支えしてくれました。

Q 中期経営計画の進捗状況と今後の成長戦略をお聞かせください。

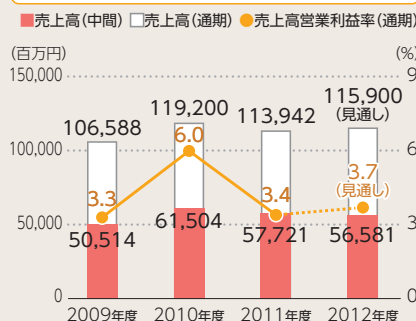
A 現行計画の成果を次期計画に継承し、さらなる成長を目指します。

当社が現在取り組んでいる2010年度から2012年度までの中期経営計画「STEP UP 100」は、当期が最終年度です。残念ながら収益目標の達成は困難な情勢ですが、販売部門の責任の明確化、間接部門の生産性向上、グループ企

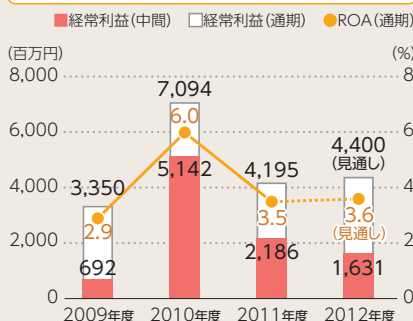
業との連携強化などの重点課題については、一定の成果を残すことができたと判断しています。鋼板関連事業では住宅分野への進出などで事業領域を広げることになりましたし、先ほどご紹介した光学用機能フィルムなどの新製品も順調に売上を伸ばしています。残り半年足らずですが、少しでも収益目標に近い業績を残せるよう最後まで全力を尽くすことで、次の中期経営計画のスタートダッシュにつなげたいと考えています。

次の中期経営計画は現在作成の途上で、現時点では大まかな方向性しかご紹介できませんが、基本的な考え方については、現在の計画の延長線上にあるものになるでしょう。大きなテーマの一つとなるのが、鋼板関連事業の抜本的なテコ入れです。日米欧など先進国の成熟した鉄鋼市場では、もはや大きな利益を創出することは非常に困難です。利益を得るためには、どこで何を作り、どこに売るか、ということをグローバルな視点で再考し、外部との連携を含め抜本的な改革をしなければならぬと考えています。このほかライフサイエンス分野、住宅分野などに向けた新技術、新製品の開発にも引き続き注力していく方針です。

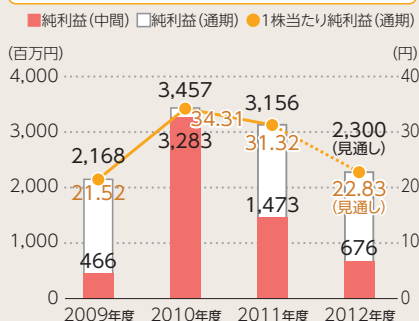
連結売上高／売上高営業利益率



連結経常利益／ROA



連結中間(当期)純利益／1株当たり純利益





Q 下期の重点施策と通期業績予想についてお聞かせください。

A 次期計画の策定と計画実行に向けた体制づくりが大きなテーマに。

下期にかけても事業環境の大幅な好転は期待しにくい状況で、通期の連結業績予想については、売上高1,159億円（前期比1.7%増）、営業利益43億円（前期比9.5%増）、経常利益44億円（前期比4.9%増）、当期純利益23億円（前期比27.1%減）と、期初予想を下方修正させていただきました。鋼板関連事業の立て直しに引き続き注力するとともに、光学用機能フィルムのさらなる拡販、バイオチップの実用化に向けた研究開発などにも取り組み、厳しい環境を乗り越えていく所存です。もちろん、先ほどご紹介した次期中期経営計画の策定も、下期の大きなテーマです。

このほか下期には、計画策定と並行して、その実行に向けた体制整備にも取り組まねばなりません。これまで組織のあり方についてはいろいろと考え、手を入れてきたつもりですが、足下の経営成績を見ていますと、まだまだ手を打つ必要があり、特に鋼板関連事業の国内外の事業責任体制の整備

が急がれます。各部門の責任者に大胆に権限を委譲し、やる気のある人材がもっとチャレンジできる組織をつくりたいと考えています。このほか海外拠点の運営は現地の人材登用を基本方針として現地従業員のモチベーション向上を図り、これまでの当社グループにはなかった試みも取り入れ、新たな計画に相応しいアグレッシブな組織を目指します。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 新たな成長への確かな息吹を感じつつ、さらなる高みを目指してまいります。

当中間期の配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり4円とさせていただきます。期末配当金についても同額を予定しており、年間配当金は1株当たり8円となる計画です。

2005年に社長に就任して以来、私は東洋鋼鋳をもっとも強い会社とするために、事業構造の徹底的な改革に取り組むとともに、従業員の意識改革を訴え続けてきました。これまでの取り組みを通じて、東洋鋼鋳が良い方向に変わってきていることは間違いありません。組織は活性化し、事業基盤は鍛え抜かれ、新たな成長に向けた息吹もそここから感じ取ることができるようになりました。しかしながら足下の経営成績を鑑みますと、やはりまだまだ「本気」になれていない、本当に追い込まれた状態で仕事をしてこなかったのかもしれない。来年4月にスタートする次期中期経営計画では、もっとも東洋鋼鋳を「本気」にさせ、潜在能力をすべて引き出すことでさらなる高みを目指していきたいと考えています。

株主をはじめステークホルダーの皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

TOPICS

東洋鋼鋸グループ「CSR報告書2012」を 発行しました。

CSRとは特別な何かをするということではなく、日々マーケットに近づく姿勢や考え方を養い、日常の業務を変革して事業活動に表現していくことです。

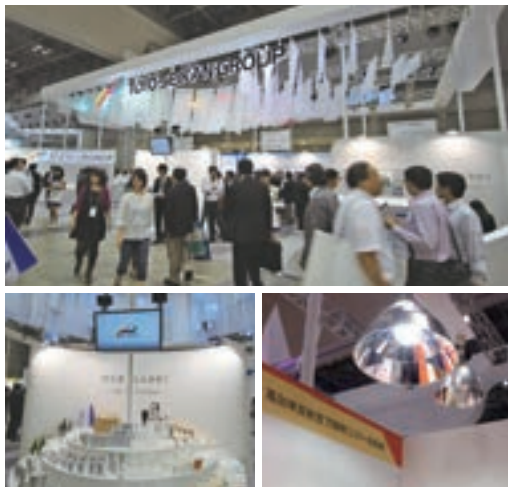
企業が持続的に発展していくためには利益の追求のみならず、ステークホルダーの皆様からのさまざまな要請に応え、社会的に有益な活動を端的に行うことが必要です。株主の皆様への期待に応えた仕事ができるよう、東洋鋼鋸グループの社員一人ひとりがCSRを意識して活動していきたいと考えています。

東洋鋼鋸 CSR 報告書

検索



「TOKYO PACK2012」に出展しました。



10月2日～5日、東京ビッグサイト国際展示場において「TOKYO PACK2012」(東京国際包装展)が開催されました。

当社は東洋製罐グループの一員として「ミラーコートK」を使用した『どこでも光窓』や『SetsuDenミラー』を出展し、包装容器技術を応用した製品の紹介をしました。

『SetsuDenミラー-E610』は環境省平成23年度環境技術実証事業において、照明用エネルギー低減効果に対する性能の実証試験を実施しました。



東洋鋼鉄のものづくり

創業以来、当社はものづくりにこだわり、お客様にご満足いただける商品・サービスを提供してきました。
このページでは当社のものづくりの現場をご紹介します。

く だ ま つ 生産拠点下松事業所ご紹介



私たち東洋鋼鉄の一大生産拠点、それが下松事業所です。今なお豊かな自然の残る山口県下松市で昭和9年(1934年)「ぶいき国産自給化」の夢を掲げ、熱き魂を胸に秘めた技術者達がこの地に根ざしてものづくりを始めました。



「あらゆる可能性」に挑戦する 下松事業所

技術研究所や生産ラインをはじめ、原材料・副資材の搬入や製品出荷をダイレクトに行える港湾施設、環境管理センターなど、研究開発から製造、出荷、さらに環境保全までをバックアップするすべての施設を整備しています。お客様の満足を第一にものづくりにこだわるスタッフが、今日も熱い情熱を持って仕事に打ち込んでいます。

最新の設備と 確かな生産管理体制

お客様の多様なニーズにお応えし、心から満足していただくために、東洋鋼鉄は技術の向上はもちろん新しい設備の開発・導入にも積極的に取り組んでいます。最新の設備と確かな生産管理体制のもとで、高品質な製品の安定供給を実現しています。



下松事業所 概要

- ISO9001、14001認証取得工場
- 山口県下松市東豊井1302番地の1
- 敷地面積:530,000m²

下松ってどんなところ!?



- 下松市は山口県の南東部に位置し、人口は5万6千人。
- 瀬戸内海沿岸には工場が立ち並び、周南の徳山港とともに徳山下松港と称され、特定重要港湾に指定されている。
- 毎年東洋経済が発表している『住みよさランキング』において2012年は全国13位に選ばれ、中国・四国地方では3年連続1位を獲得。
- 商業施設が充実し、「利便度」で全国8位とトップクラス。
- 下松の由来は1400年前推古天皇の頃、松の木に大星が降り七日七夜光り輝き『百済の皇子がやって来る』とお告げをしたという伝説から「星が降った松」が「降り松」となり「下松」となったと言われている。現在でも「星ふるまち下松」と呼ばれているのはこのため。また、百済と交易する港という意味の「百済津」からという説もある。



開発ストーリー ～ラミネート鋼板「ハイペット」～

身近な飲料缶に、環境にやさしい安心の素材を。「ハイペット」はこうして生まれました。

STORY 1 このままで、いいわけがない。

毎日の暮らしの中でよく目にする飲料缶ですが、従来は缶の腐食・錆を防止するために、製缶メーカーで缶の内側・外側にラッカー(塗料)の塗装・焼付が必要でした。しかし、その工程で大量に使用される塗料・溶剤・水、さらにCO₂…。そして塗料特有の臭い…。たくさんの人が気軽に喉を潤している飲料缶が、環境に多くの負荷をかけている。飲料缶の素材をつくるメーカーとして、その事実は見過ごせない問題でした。環境にやさしい安心な素材をつくるというプロジェクトは、こうして動き出しました。

STORY 2 生産工程を根本から見直す勇気。

新素材の開発にあたって、開発チームは生産プロセスを根本から見直しました。そこで気づいたのが、塗装したうえでさらに焼き付けるという工程の無駄。ポリエステル(PET)フィルムなら熱のみで瞬時に被覆でき、排出物もない。この着眼点から塗装・洗浄工程の省略とCO₂排出の大幅削減、そして排水ゼロを実現するラミネート鋼板「ハイペット」が誕生したのです。さらにPETフィルムは臭いもありません。飲料の香りを保つという点からも理想の素材でした。

STORY 3 新素材の開発から実用化へ。

「ハイペット」では、フィルムと鋼板の強い密着性を実現するため、シビアに管理された製造工程が求められます。そのためハイレベルのクリーンルーム環境下、最新の品質保証計器により常に安定した品質を実現しています。このラミネート技術を用いた飲料缶は、産業界のノーベル賞といわれる大河内記念賞を受賞するなど、高く評価されています。底が白い缶を見たら思い出してください。それが東洋鋼鋳の「ハイペット」。地球にやさしい新素材です。

ラミネート鋼板「ハイペット」



▲TULC



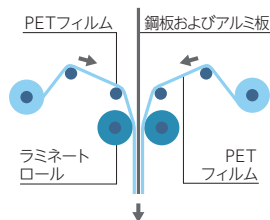
▲aTULC

「ハイペット」は環境にやさしい安心な素材として、東洋鋼鋳が独自に開発したフィルムラミネート鋼板です。代表的な用途は飲料缶でスチールベースの「TULC」、アルミベースの「aTULC」など、その進化は飲料缶の可能性を大きくひろげます。



※ TULC(タルク)はToyo ULtimate Canの略で「究極の缶」の意味です。東洋製罐(株)が開発しました。

ラミネート工程



◆ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 2012年9月30日現在	前期 2012年3月31日現在
資産の部		
流動資産	66,027	65,194
固定資産	54,239	55,795
有形固定資産	46,738	47,778
無形固定資産	497	533
投資その他の資産	7,003	7,483
① 資産合計	120,267	120,990

科目	当中間期 2012年9月30日現在	前期 2012年3月31日現在
負債の部		
流動負債	32,441	33,605
固定負債	8,093	7,996
② 負債合計	40,535	41,602
純資産の部		
株主資本	79,165	78,892
その他の包括利益累計額	△ 744	△ 834
少数株主持分	1,312	1,330
③ 純資産合計	79,732	79,388
負債純資産合計	120,267	120,990

◆ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2012年4月1日から 2012年9月30日まで	前中間期 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	前期 2011年4月1日から 2012年3月31日まで
④ 売上高	56,581	57,721	113,942
売上原価	49,586	50,246	99,218
売上総利益	6,994	7,475	14,723
販売費および一般管理費	5,437	5,346	10,796
営業利益	1,557	2,128	3,926
営業外収益	296	404	731
営業外費用	221	347	462
経常利益	1,631	2,186	4,195
税金等調整前中間(当期)純利益	1,082	2,186	4,195
中間(当期)純利益	676	1,473	3,156

POINT

【資産の部】①

総資産は、前期に比べ7億23百万円減少して、1,202億67百万円となりました。このうち流動資産は、たな卸資産は減少したものの、現預金が増加したこと等により、前期に比べ8億33百万円増加しました。固定資産は、有形固定資産の減少、保有株式の時価の下落による投資有価証券の減少等により、前期に比べ15億56百万円減少しました。

【負債の部】②

負債は、未払金の減少等により、前期に比べ10億67百万円減少して405億35百万円となりました。

【純資産の部】③

純資産は、前期に比べ3億43百万円増加して797億32百万円となりました。これは利益剰余金が増加したこと等によるものです。

POINT

【売上高について】④

売上高は、主力の鋼板関連事業における販売数量の低迷や販売価格の下落の影響等により、565億81百万円となりました。

会社の概況

商号	東洋鋼鋸株式会社
本社	東京都千代田区四番町2番地12
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	2,120名(連結)
事業所	本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、 広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、 下松事業所(山口県下松市)

役員

取締役会長	三木 啓 史	監査役	宮 本 光 晴
代表取締役社長	田 中 厚 夫	監査役	大 川 邦 夫
取締役常務執行役員	吉 武 潤 一郎	常務執行役員	大 谷 憲 史
取締役常務執行役員	宮 地 正 文	執行役員	浪 岡 貞 之
取締役常務執行役員	坂 本 信 夫	執行役員	田 辺 敏 幸
取締役常務執行役員	外 川 照 義	執行役員	中 野 和 則
取締役執行役員	隅 田 博 彦	執行役員	藤 井 孝 司
常勤監査役	根 岸 保 弘		

東洋鋼鋸グループ

国内

鋼鋸商事株式会社
 鋼鋸工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD. (マレーシア)
 上海東洋鋼鋸商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼鋸新材料科技有限公司(中国)

株式の状況

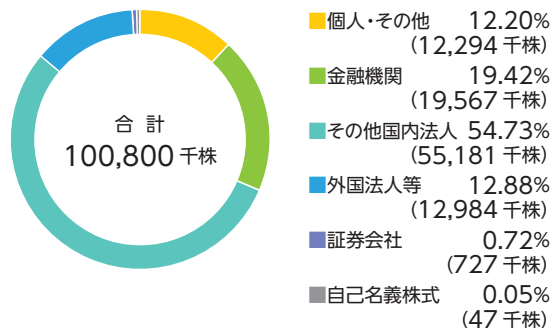
発行可能株式総数	403,200,000株
発行済株式の総数	100,800,000株
株主数	3,812名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐株式会社	47,885	47.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,076	3.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,988	2.97
株式会社三井住友銀行	2,980	2.96
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,110	2.09
公益財団法人東洋食品研究所	2,055	2.04
BBH(LUX)FIDELITY FUNDS-JAPAN ADVANTAGE	1,690	1.68
三井住友海上火災保険株式会社	1,680	1.67
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.42
株式会社山口銀行	1,316	1.31

(注)持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417
(インターネット ホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/ agency/index.html
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

アンケートにご協力ください

株主の皆様のご意見・ご要望を当社IR活動に反映させるべく、株主アンケートを実施いたします。お手数ですが、本報告書に同封のアンケートハガキにご回答の上、ご返送くださいますようお願いいたします。お一人でも多くの株主様からのご意見をお待ちしておりますので、ご協力をお願いいたします。

 **東洋鋼鉄株式会社**



〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03) 5211-6211 (代表)
ホームページURL <http://www.toyokohan.co.jp>



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

東洋鋼鉄

検索

コーポレートサイト



当社のホームページでは、投資家の皆様向けのIR情報をはじめ、最新のニュースをお知らせする「What's New」、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鉄」など、さまざまな情報を掲載しております。

<http://www.toyokohan.co.jp>

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

[http://www.toyokohan.co.jp/
ja/ir/index.html](http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html)